

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01308

研究課題名(和文)「デジタル改革と成長戦略の日欧比較分析」

研究課題名(英文) Japan-EU Comparative Analysis of Growth Strategy and Digital Reform

研究代表者

福田 耕治 (Fuluda, Koji)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：20165286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「予見的ガバナンス」の観点から、日欧のデジタル改革と成長戦略の比較分析を行った。2021年と2022年には、新型コロナ禍における日本の教育者が遭遇したデジタル化とテクノストレスの関係を多変量解析により考察し、2報の査読付き海外英文ジャーナルに発表した。2021年刊行論文は、世界で47のサイテーション、2022年刊行論文、9サイテーションを得ている。本研究の最終成果として、EU/日本のデジタル変革(DX)と成長戦略を論じた論稿、およびEUのデジタルプラットフォーム政策とSDGsの関係を論じた2論文は、2023年『EU・欧州統合の新展開とSDGs』(成文堂)として公刊した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1に、クラウド・AI・ビッグデータなどのデジタル技術の利活用とグローバルな規制により、循環型経済社会の構築と各産業分野でのエネルギー使用の最適化に貢献できることが明らかになった。第2に、地政学的連合の台頭、安全保障の観点からデジタル主権を強化し、ソフト・パワーのみではなく日欧防衛産業の育成、加盟国間の軍事協力の最適化することで、国際安全保障、国連SDGsにおけるグローバル・ガバナンスへの貢献が期待できる。第3に、共通の価値と利益を有する日本とEUがデジタル規制分野における日欧協力によりデジタル主権を確保し、国際法に基づく世界平和秩序の維持に日本も貢献できることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The study conducted a comparative analysis of digital reforms and growth strategies in Japan and Europe from the perspective of 'anticipatory governance': in 2021 and 2022, a multivariate analysis of the relationship between digitalisation and technostress encountered by Japanese educators in the new corona disaster was examined and published in two peer-reviewed foreign English-language journals. 2021 publication, which received 47 citations worldwide, and a 2022 publication, which received 9 citations. The final outcome of this research, a paper discussing EU/Japan digital transformation (DX) and growth strategies, and two papers discussing the relationship between EU digital platform policies and the SDGs, were published in 2023 as New Developments in EU and European Integration and the SDGs (Seibundo).

研究分野：政治学

キーワード：Covid-19 感染制御 デジタル経済 DX(デジタル・トランスフォーメーション) 成長戦略 ソーシャル・キャピタル テクノストレス EUデジタル主権 サイバーレジリエンス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

新型コロナ・パンデミックは、EU/欧州のみならず日本や世界にも深刻な影響を及ぼした。人の移動制限や事業規制による経済活動の鈍化に伴い、製造業・サービス業も閉鎖・廃業に追い込まれた企業も多く、失業者や生活困窮者の増大で深刻な事態に陥っている。そこでコロナ禍から、非対面での経済復興と経済成長の手段となるのが「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」である。

2. 研究の目的

本研究は「デジタル改革と成長戦略の日欧比較分析」をテーマとし、感染制御と社会経済活動を両立させる制度設計と政策提言することを目的とした。具体的な研究目的としては、日本と欧州のデジタル変革と成長戦略を比較し、両者の違いや共通点を明らかにし、日欧の持続可能な成長に向けた展望や取り組みの方向性を、理論的かつ実証的に示すことにある。さらに AI の倫理基準やデジタル分野の規制規範のグローバル・スタンダードの構築に向けた日欧協力の可能性と課題を探ることにある。

3. 研究の方法

コロナ後の世界を見据え、予見的ガバナンス(anticipatory governance)の方法、理論的枠組みを用い、日欧のデジタル変革を比較分析することにより、行財政資源の適正配分と体系的な制度設計・政策調整の在り方を考察した。日本と欧州におけるデジタル変革と成長戦略の比較には、政治経済学や比較政治学、学際的研究方法を用いることとした。政治経済学や比較政治学、学際的研究方法を用いてデジタル政策に関する体系的な分析を行った。

政治経済学は、デジタル変革が政治や経済に及ぼす影響を理解し、政府の政策や産業の成長戦略にどのように影響を与えるかを分析するための枠組みを提供する。この視点からは、デジタル技術の普及がどのように政治的権力や経済的構造に影響を与えるかが重要である。

比較政治学は、日本と欧州の政治システムや政策形成プロセスを比較検討し、それらがデジタル政策の遂行や成長戦略の立案にどのように影響を及ぼすかを明らかにした。異なる政治文化や制度がデジタル変革における課題や解決策にどのような影響を及ぼすかを検討する方法を用いることで、政治経済学と比較政治学の視点を融合させた。

さらに学際的アプローチによって、デジタル変革の多面的な側面を捉え、日本と欧州の成長戦略を総合的に比較することが可能になる。本研究においては、Covid-19 に関する教育者の知識と認識、被験者の属性やソーシャルキャピタルに基づく定量的なデータ分析や比較事例研究を通じて、日本と欧州のデジタル政策の実施状況や成果を客観的に評価し、両者の違いや共通点を明確化する。さらに、専門家へのインタビューやアンケート調査を通じて、より実証的な分析を行なった。

4. 研究成果

デジタル変革において、EU では欧州委員会や欧州議会が中心となり、EU の戦略的自律性とデジタル主権の確立・強化を目指して、戦略的に EU 行政の DX を推進してきた。同時にテック企業や主権国家はさまざまな成長戦略を展開し、その遂行においてデジタル・ネットワーク・ガバナンスが重要な役割を果たしている。日本と欧州では、デジタル経済社会の急速な変化に対応するために、それぞれ異なるデジタル成長戦略を展開している。日本では、デジタル変革による効率性向上やデジタル・イノベーション推進に重点を置きつつ、国家主導の産業のデジタル変革(DX)政策による成長戦略を推進してきた。EU/欧州諸国では、デジタル化とデジタル変革が進展するなかでイノベーションを促進し、データ経済の構築を目指す成長戦略を展開している。

さらに、デジタル変革の進展に伴う課題や可能性も重要な論点である。デジタル技術の急速な進化により、新たな課題やリスクが浮かび上がってきた。例えば、データの活用やプライバシー保護に関する問題、デジタル格差の是正などが挙げられる。日本とEU/欧州諸国では、これらの課題に対応するために、デジタル政策の枠組みを整備し、適切なガバナンスを構築する必要がある。特に、人々のデジタルリテラシーの向上やデータのサイバー・セキュリティ確保などが重要な課題となっている。

一方で、行政と各産業分野のデジタル変革に伴うイノベーションの可能性も期待される。デジタル技術の活用により、イノベーションが促進され、新たなビジネスモデルが生まれることで経済成長が期待される。また、デジタル化によって、効率性や生産性が向上し、経済成長が牽引さ

れる可能性もある。日本と欧州は、デジタル変革を通じて、新たな成長の基盤となる。

以上のように、デジタル経済社会における成長戦略の遂行やガバナンス、デジタル化の進展に伴う課題や可能性は、日本と EU/欧州諸国において重要な論点となる。両者の違いや共通点を明らかにしながら、持続可能な成長戦略の構築に向けて、さらなる研究と議論が必要となろう。

日欧のデジタル変革の在り方の違いを踏まえ、日本と欧州が直面する課題や成功要因を明確にして持続可能な成長戦略を構築することが必要である。日本においては、デジタル化、DX に遅れを取っている産業が多く、新興テクノロジーの導入において欧州に比べて遅れが目立つ。これは、日本の伝統的な産業構造や組織文化の影響が大きいとされる。一方、欧州はデジタル技術の導入が進んでおり、特に北欧諸国やドイツなどはデジタル・イノベーションの先進地域として知られているが、欧州全体としてはデジタル経済の一体化が進んでおらず加盟国間での調整を図り、EU 単一デジタル市場への統合という課題が残されている。

日本のデジタル変革における課題としては、まず、ICT（情報通信技術）人材の不足が挙げられます。日本においては、デジタル技術の専門家、技術者の不足が深刻化しており、これがデジタル化の遅れやイノベーションの停滞につながっている。また、日本の規制環境もデジタル・イノベーションを阻害する要因として挙げられ、特に、新興テクノロジーに関する法規制の遅れや不透明さがイノベーションを抑制している。日本において成長戦略は、デジタル変革を牽引する政府の役割が重要である。政府はデジタル化推進のための戦略を策定し、産業界や研究機関と連携してイノベーションを促進する必要がある。また、デジタルスキルの獲得を支援するための教育システムの改善も重要です。欧州においても、デジタル経済の発展には政府の役割が欠かせない。特に、デジタル・イノベーションを支援する法的枠組みの整備やデジタル教育の普及が必要であろう。

欧州のデジタル変革における課題としては、まず、各加盟国間でのデジタルスキルの不均衡が挙げられる。欧州全体ではデジタルスキルの獲得が進んでいる北欧、西欧地域もあれば、未だにデジタル教育が不十分な地域も存在している。これがデジタル経済の発展を阻害する要因の一つとなっている。また、欧州においてもデータのプライバシーやサイバー・セキュリティに関する規制の違いがデジタル市場の一体化を妨げている問題が課題となってきた。そこで EU は、GDPR を皮切りに、デジタル市場法、デジタルサービス法、AI 法、サイバー・レジリエンス法を矢継ぎ早に制定し、実施に向かいつつある。これらのデジタル分野における EU の規制規範をグローバル・スタンダード化するうえで、日本との協力が有効な戦略になりうる。

持続可能な成長戦略を構築するためには、日本と欧州がそれぞれの課題と成長要因を踏まえ協力し、デジタル経済の発展を促進する必要があります。両者が共通の価値観や目標を共有し、デジタル変革に向けた包括的な戦略を策定することが重要である。また、産業界や学术界との連携も大切であり、持続可能なイノベーションを生み出すための環境整備が求められる。今後のデジタル変革の課題や可能性を洗い出し、持続可能な成長戦略の構築に向けた示唆を得ることができた。デジタル化が進む中で、日本と欧州が直面する課題や成功要因を把握し、それらに対応する柔軟性や新たな政策の展開が求められるよう。両者の持続可能な成長に向けた展望や取り組みの方向性を、理論的かつ実証的に示せたことが本研究の重要な成果といえる。

参考文献：福田耕治(2023)「国連 SDGs と EU 新成長戦略による政策対応」、福田耕治(2023)「EU のデジタル・プラットフォーム政策と SDGs」福田耕治編著『EU・欧州統合の新展開と SDGs』成文堂、第 1 章、第 2 章。福田耕治(2024)「ウクライナ戦争とデジタル主権」グローバル・ガバナンス学会編『ウクライナ戦争とグローバル・ガバナンス』芦書房、第 7 章。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 福田耕治	4. 巻 23
2. 論文標題 EUのデジタル戦略とウクライナ危機	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 公益学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田耕治	4. 巻 99/ 2021・7・31
2. 論文標題 デジタル改革（DX）による持続可能で公正な競争環境の構築 -日欧協力の可能性と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 e論壇 議論百出、JFJ, グローバルフォーラム 欧州政策パネル・コメンタリー(デジタル版)	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Fukuda Yasue, Ando Shuji, Fukuda Koji	4. 巻 16
2. 論文標題 Knowledge and preventive actions toward COVID-19, vaccination intent, and health literacy among educators in Japan: An online survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1,16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.phone.0257552	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Fukuda, Koji Fukuda	4. 巻 19(4):2134
2. 論文標題 Educators' Psychosocial Burdens Due to the COVID-19 Pandemic and Predictive Factors: A Cross-Sectional Survey of the Relationship with Sense of Coherence and Social Capital "	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health,	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph19042134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福田耕治	4. 巻 第4巻
2. 論文標題 EUの戦略的自律性と欧州ガバナンス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JFIR World Review 特集『欧州政治』のリアル	6. 最初と最後の頁 104-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福田耕治	4. 巻 1
2. 論文標題 国連SDGsとEU新成長戦略による政策的対応	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『EU・欧州統合の新展開とSDGs』	6. 最初と最後の頁 1, 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田耕治	4. 巻 1
2. 論文標題 EUのデジタル。プラットフォーム政策とSDGs	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『EU・欧州統合の新展開とSDGs』	6. 最初と最後の頁 13, 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田八寿絵	4. 巻 1
2. 論文標題 EUにおける医療人的資源のグローバルガバナンスとSDGs	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『EU・欧州欧号の新展開とSDGs』	6. 最初と最後の頁 95, 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田八寿絵	4. 巻 1
2. 論文標題 EUの医科学研究政策とジェンダー戦略	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『地域環境性と技術』	6. 最初と最後の頁 129,154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 福田耕治
2. 発表標題 基調講演「ウクライナ危機から学ぶ安全保障と公益-ディープ・テックとの関連で」
3. 学会等名 日本公益学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福田耕治
2. 発表標題 「国際行政学とグローバル・ガバナンス論そして学会への期待」
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福田耕治
2. 発表標題 デジタル改革 (DX) による持続可能で公正な競争環境の構築 -日欧協力の可能性と課題
3. 学会等名 Zoomリアルタイム配信 ベルギー欧州政策フォーラム (CFPS) ・グローバルフォーラム共催 国際シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 福田耕治	4. 発行年 2023年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 296
3. 書名 『EU・欧州統合の新展開とSDGs』	

1. 著者名 福田耕治(須網隆夫・21世紀政策研究所編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 『EUと新しい国際秩序』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	福田 八寿絵 (Fukuda Yasue) (60625119)	鈴鹿医療科学大学・薬学部・教授 (34104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------